

JF-IETF-RFC3581

NAPT 存在下でレスポンスの対称ルーティングを行うための SIP 拡張

An Extension to the
Session Initiation Protocol (SIP) for
Symmetric Response Routing

第 1.0 版

2009 年 5 月 27 日制定

社団法人

情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

本書は、（社）情報通信技術委員会が著作権を保有しています。
内容の一部又は全部を（社）情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

目次

<参考>	4
1. 標準の概要	5
2. 本標準で規定する内容	5

<参考>

1. 国際勧告等との関係

本標準は、IETFにおいて制定されたRFC3581に準拠している。

2. 上記国際勧告等に対する追加項目等

2.1. オプション選択項目

特になし

2.2. ナショナルマター項目

特になし

2.3. 原標準に対する変更項目

特になし

3. 改版の履歴

版数	制定日	改版内容
第1.0版	2009年5月27日	制定

4. 工業所有権

TTCの「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTCホームページで公開されている。

5. その他

(1) 参照する主な勧告、標準

IETF RFC: RFC2119, RFC3261, RFC3327, RFC3489, RFC3424

(2) 本出版は、具体的な規定内容を含んでいない。規定はすべて準拠元であるIETF RFCによっている。

具体的な規定内容はRFCを参照する必要がある。

6. 標準作成部門

信号制御専門委員会

1. 標準の概要

セッション開始プロトコル(SIP)は、とりわけ UDP 並びに TCP 上で動作する。UDP で使用する場合、リクエストに対する応答は、リクエスト元のソースアドレスでかつ、リクエストの Via ヘッダフィールド値の最上位に記述されたポート番号に対して返される。クライアントが NAT (Network Address Translation)内に位置する場合、この動作は、最も著しく、多くの場合で望ましくない。本標準は、リクエストが発せられたソース元 IP アドレスとポート番号にサーバがレスポンスを返送する要求をクライアントに可能にする"rport"と称する Via ヘッダフィールドの為の新規パラメータを定義する。

2. 本標準で規定する内容

本標準で規定する内容は下記の IETF RFC による。

IETF RFC3581 : 「An Extension to the Session Initiation Protocol (SIP) for Symmetric Response Routing」